



2010年4月 号外

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

民主党参議院比例区第37総支部代表

大島 九州男 特集号

〒822-0022 福岡県直方市知古 764-1
☎0949-22-0576 / FAX0949-24-3110

http://KUSUO-O.NET

平成22年度予算を可決 大島 九州男 参議院議員 参議院予算委員会で質問と賛成討論

大島九州男参議院議員は、3月5日に予算委員会で質問に立ちました。

冒頭、菅財務大臣に22年度予算編成についてのポイントを確認。菅大臣は、「コンクリートから人へ」という理念の下、大変厳しい経済環境の中でマニフェスト実現に向け、大胆な資源配分ができた事を強調。そして、大島九州男議員自身が野党時代から手がけていた高校無償化法案やバリアフリー法案をはじめ、統合医療、中小企業対策など幅広く質問を行いました。その中で、大島九州男議員は、教育・統合医療・中小企業…すべての分野において「大きな木には、たくさんの水が必要。小さな草花には少しの水でよい」という三草二木のおしえに基づき、「国民の一人おひとりを大切に作る施策を…」と強く訴えました。

それらを受け鳩山総理は、「きめ細やかな対策を行うために、科学的、かつ精緻に現状を調べ、どういう方々にはどういう施策が必要なのか、そのことをしっかりと認識し、内閣を挙げて対策に万全を期したい」と答弁しました。



＜大島議員の質問に答弁する鳩山総理大臣＞

3月24日、平成22年度予算が参議院予算委員会での質疑・討論・採決を経て、本会議に緊急上程され、可決、成立しました。大島九州男議員は、会派を代表し、予算委員会での賛成討論に臨みました。この中で、平成22年度予算を鳩山友愛予算と名付け、「前政権による税のムダ遣い・弱者切り捨てのしがらみ予算から、国民の教育と生活の安心を確保し、地域主権を目指す予算へ大きく舵を切った」と主張。そのうえで、賛成の理由を、①高校実質無償化は日本の教育力を底上げする第一歩である、②国の安全保障は食を守ることから始まり、戸別所得補償制度を導入した意義は大きい、③年金問題の集中的取り組みと子ども手当の創設によって内需が拡大し、景気回復につながる、④地方交付税交付金の前年度比約1兆円の増額で地域主権がスタートした、おもに4点を挙げました。

最後に、「鳩山日本丸が航行を始めれば、国民は、未来の夢と希望の風を肌で感じ、鳩山総理の友愛精神の思いを感じとっていただけるものと確信する」として、鳩山総理に「力の限り政権の舵取りを行っていただくことをお願いする」と結び、賛成討論を締めくくりました。



審議の様子は、インターネット(録画)で視聴できます。
なお公開は次期国会召集の前日までとなっています

【視聴の仕方】

- ①インターネットで参議院のホームページを開く
「参議院」で検索するか、
<http://www.sangiin.go.jp> とアドレスを打ち込む
- ②『参議院審議中継』をクリック
- ③画面右下の『会議名や発言者からの検索』→『発言者』欄に大島九州男と入力→『検索』をクリック
- ④閲覧したい『会議名』をクリック→動画開始!

水俣病未認定患者の救済に向けて

3月7日、小沢鋭仁環境大臣ら国会議員団が熊本県水俣市を訪れ、水俣病未認定患者7団体の幹部と会談が行われました。この会談に先立ち、水俣湾の埋立地にある慰霊の碑に献花をしました。

大島九州男参議院議員も同席をし、「患者・被害者団体の皆さんお一人おひとりを第一に考えた救済を目指します」とご挨拶をさせていただきました。

「水俣病不知火患者会」が損害を求め



＜水俣病慰霊の碑前にて＞



＜慰霊の碑に小沢大臣が献花＞

た訴訟で、原因企業のチツスは、3月26日、熊本地裁が示した和解案の受け入れを正式に決定。既に国と県は受諾を表明しているため、チツスが受諾したことにより被告3者のすべてが受け入れを決めたことになりました。

まもなく水俣病の公式確認から54年。大島九州男議員は、大きな前進にホッとしながらも、「これからは本当の患者救済です」と意欲的に語っています。

学力格差の是正を！

参議院文教科学委員会質問

大島九州男参議院議員は、3月19日に予算委員会の委嘱審査として、25日に高校無償化法案審議として、参議院文教科学委員会で質問を行いました。内容は、法案をはじめ、学力向上、学校耐震化、原子力など多岐にわたっています。

まず、高校無償化法案に関連し、学びたい生徒が公立・私立と関係なく学べるよう、公私間格差を無くす環境を整えることを強く要望しました。さらに、学力向上という観点からは、学習指導要領を改訂し、教科書の量・質ともに充実が図られることが必要であると提案。それに対し川端文部科学大臣は、学習指導要領に対応して創意工夫し、また、厳選された教科書が作られるよう取り組むと答弁しました。

